

2018年（平成30年）12月13日

## 輸送動向について（平成30年11月分）

### 1. 輸送概況

今月は、平成30年7月豪雨および東北線・東海道線での輸送障害等の影響により、高速貨192本が運休となった（前年は、高速貨14本が運休）。

コンテナは、自動車部品が大手自動車メーカーの増産に伴って東海地区から東北地区向けの輸送が好調に推移したほか、家電・情報機器ではドライバー不足による鉄道へのシフトが進んだことおよび停電時も使用可能な暖房器具の需要が伸びていること等から増送となった。

一方、紙・パルプが国内需要の減少に伴って大幅に減送となったほか、農産品・青果物は、夏季の天候不良に伴い生育不良となった北海道産の生野菜、馬鈴薯、玉葱等が低調に推移した。また、山陽線開通後も平成30年7月豪雨による影響を一部受けている、食料工業品、化学工業品、化学薬品等が前年を下回り、コンテナ全体では前年比96.6%となった。

車扱は、石油が冬季の需要期に入ったものの前年と比較して気温が高く推移したことから、灯油を中心に低調な荷動きとなり、車扱全体では前年比92.9%となった。

コンテナ・車扱の合計では、前年比95.6%となった。

### 2. 輸送実績

（単位：千トン、％）

種別 扱別	月 計		前年比	年 度 累 計		前年比
	本年実績	前年実績		本年実績	前年実績	
コンテナ	1,934	2,002	96.6%	13,014	14,961	87.0%
車 扱	748	804	92.9%	5,482	5,512	99.5%
合 計	2,682	2,807	95.6%	18,496	20,472	90.3%

### 3. 品目別輸送実績表

（単位：千トン、％）

扱 別	品 目	本年実績	前年実績	増減	前年比
コンテナ	農産品・青果物	202	218	-16	92.4%
	化学工業品	172	183	-11	93.7%
	化学薬品	130	134	-4	96.9%
	食料工業品	309	319	-10	96.7%
	紙・パルプ	250	274	-24	91.4%
	他工業品	136	136	0	99.9%
	積合せ貨物	255	254	1	100.5%
	自動車部品	81	76	5	107.1%
	家電・情報機器	40	36	4	111.1%
	エコ関連物資	41	44	-3	91.5%
	その他	318	326	-8	97.5%
コンテナ計	1,934	2,002	-68	96.6%	
車 扱	石油	507	576	-69	87.9%
	セメント・石灰石	119	99	20	119.9%
	車 両	73	77	-4	94.9%
	その他	49	51	-2	94.8%
	車 扱 計	748	804	-56	92.9%
合 計		2,682	2,807	-125	95.6%

（車扱の品目別輸送量は社線発送トン数も含む数値、本年は速報値、前年は確報値）